

Ⅲ 大腸CT検診の検査・読影技術の到達点

8. 大腸CT検診の運用方法

— 検診施設/総合病院/クリニックにおけるノウハウ

2) 健診会東京メディカルクリニックにおける大腸CT検診の実際

三原 嵩大 健診会 東京メディカルクリニック放射線科

東京メディカルクリニックは、2012年に東京都北区に新設され、前身であるクリニック滝野川内科の時代から40年にわたり診療を行っている。現在は健診・人間ドック部門、内科を中心とした診療部門、近隣施設から検査のみの紹介を受ける画像検査センターの3つの事業部門で構成されている。地域の受診者や近隣施設の先生方のニーズに合わせて、最適な質の高い医療の提供ができるよう取り組んできた。自施設内でのMRI、CTを用いた精密検査や簡易精検なども行っている。検査機器としては、3T MRI 1台、1.5T MRI 2台、CT 1台、マンモグラフィ1台、透視台3台、そのほかワークステーションなどを用い、さまざまなニーズに応えられるようにしている。放射線科では年間MRI 1万9000件以上、CT 8000件以上の検

査を、放射線科医師2名、診療放射線技師14名の体制で取り組んでいる。

本稿では、これから大腸CT導入を検討しているクリニックへ向けて、当クリニックにおける導入の経緯から現在の検査の流れ、前処置の運用や介入職種との連携について紹介する。

当クリニックにおける大腸CT導入の経緯

当クリニックでの大腸CT検診は、2012年の施設の新設を機に開始した(表1)。全国で大腸がん罹患率、死亡率の上昇が問題とされ始め、大腸CTの保険収載が認められた年でもある。クリニック内での全大腸内視鏡検査のマンパワー不足が明白だったことから、独自

性を持ったがん予防コースをつくるために、大腸CTの導入はオープン前から決まっていた。当時、当クリニックでは大腸検査の実績がなく、実施施設の見学などを経て、なんとか開院の翌月から導入にこぎつけることができた。実施から7年目となる現在、大腸CT検査の受診者総数は2018年9月時点で7000件を数え、二次スクリーニング検査を含めれば年間1000件を超える検査を維持し続けている(図1)。便潜血陽性二次スクリーニング検査としての大腸CTの依頼も、健診・人間ドックには劣るものの院内から増えてきており、検査数の内訳は年間で一次スクリーニング(健診受診者)が600件程度、二次スクリーニング(診療受診者)が400件程度であり、受診者は若年者から高齢者まで、さまざまである

表1 使用機器および撮影条件

使用機器	
●CT装置	Discovery CT 750 HD Veo (GE社製)
●炭酸ガス自動注入器	KSC-130 (杏林システム社製)
●ワークステーション	Ziostation2 (ザイオソフト社製)
撮影条件	
●管電圧	120kV
●管電流	Auto mA (腹臥位: NI28 仰臥位: NI20)
●検出器範囲	40mm
●ピッチ	0.984:1
●回転速度	0.5s
●再構成スライス厚(間隔)	1.25mm
●再構成法(1.25mm)	ASiR 50%



図1 大腸CT検査数推移